

(速報) 第6回三河湾大感謝祭に参加しました

矢作川流域圏懇談会では、三河湾につながる山の情報を発信するために、根羽スギを使用した木のおもちゃの展示やペンダントづくりを行いました。また、矢作川の情報を発信するために、矢作川に関するクイズの出題を行いました。

開催日時	令和元年10月20日(日) 9:00~15:00
開催場所	碧南市大浜漁港
参加人数	11名(事務局を含む)

矢作川流域圏懇談会の展示について

【ブース状況・展示物】

- ・ステージ側近の右端先頭ブースの場所で、ブース以外の空間場所も使用でき、最高の位置に出展できたといえる。
- ・流域圏クイズ、パネル展示、懇談会通信、木のペンダントづくりを展示するには、少し狭かった。そのため、パネル展示は奥のテント壁面に展示せざるをえなかった。
- ・懇談会内容説明パネル、懇談会通信を見た人は、1~2名程度だった。イベントでは、注目されないもので、文字の多いものはあまり情報として置かないほうが良い。
- ・会の途中から赤色立体地図パネルを平置きにしたところ、指さして話したりすることができるようになり、人が集まった。情報を盛り込んだり、防災情報等を説明したりしやすいので今後活用の可能性がある。
- ・海沿いの外会場であるので、今年のように風が強いことを想定して展示するもの、展示の仕方を考える必要がある。

【根羽村森林組合の展示】

- ・動く木のおもちゃは参加ブースの中では特に目立った。同様の企画はほかになく、子供が遊びに熱中するため、家族づれに好評だった。
- ・木のペンダントについて、可能であれば、電動糸鋸をもう一台用意しておく、お客さんの作業が、より流れるようになる可能性がある。
- ・弓矢の対応はスタッフの人数的に無理だと思うので、根羽スギに関するアイテムについては絞り込むほうが良い(今回の判断は賢明)。

【流域圏クイズ】

- ・まず回答を記入いただき、その後解答をチェックし補足説明した。これを行うことで、流域圏について理解・興味をもってもらえた。今後の展示でも取り入れた方がよい。
- ・参加者には、矢作川流域圏懇談会下敷き、魚のクラフト紙を景品とした。景品は客寄せに必要なものだと考えられる。

流域圏懇談会関連団体（事例集対象団体を含む）

- ・島を美しくつくる会
- ・愛知県水産試験場
- ・環境ボランティアサークル亀の子隊
- ・愛知県

会場全体の状況

- ・本会場は、家族連れが多かった。
- ・缶バッチづくり等、ものを加工し、持って帰ることができるブースが多かった。
- ・魚、貝等の海の生き物展示は3ブース程度あり、多くの家族連れを集客していた。
- ・パネル・パンフレット等の展示ブースは、来場客がまばらだった。
- ・昨年度の蒲郡でのイベントと比べ、飲食ブースが少なかった。



愛知県知事のブース訪問

昨年度に続き、ブースへの訪問があった。知事は短い時間で会場内を巡回されていたため、一旦は通過してしまったが、呼び戻して説明し、熱心に聞いていただいた。なお、知事からのコメントは特になかった。知事への説明内容としては、以下の通り。

- ・国土交通省が矢作川流域圏懇談会事務局をしており、ブースにて情報発信をしている
- ・懇談会は民・学・官の連携で進めている
- ・この会場では、特に流域の最下流である海の会場で、上流域の根羽スギによる木のおもちゃを展示することで、市民に流域連携の意識を持ってもらうことに努めている

